

A GUIDE TO BIRD-WATCHING IN SHIGIRA SEVEN MILES RESORT

シギラセブンマイルズリゾート

野鳥図鑑

宮古島で楽しむバードウォッチング



SHIGIRA SEVEN MILES RESORT

●2013年の鳥類生息調査の結果を元に、リゾート内で見られる野鳥を図鑑にしました●和名は種名で表記し必要と思われるものについては解説文中で亜種名も紹介しました●分類・和名・学名等については「日本鳥類目録改訂第7版」(日本鳥学会2012)に拠りました●写真は原則としてリゾート内で撮影したものを使用し、一部に他所で撮影したものも含まれます●最終シートに用語等の解説を載せましたのでご参照ください

カルガモ

カモ目カモ科 L38cm

Anas zonorhyncha [軽鴨] Eastern Spot-billed Duck



全国的に最も普通に見られるカモ類のひとつ。沖縄県内各地では冬鳥または留鳥。カモにしては珍しく雌雄ほぼ同色で夏冬も同色。顔の2本の黒い線と嘴先端部の黄色が特徴。シギラリゾートではゴルフ場の池で通年見られ、数も多い。特にアラマンダチャペルの北側の池では観察しやすい。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

ハシビロガモ

カモ目カモ科 L50cm

Anas clypeata [嘴広鴨] Northern Shoveler



シャベルのような幅の広い嘴をもつ淡水性のカモ類。この独特な嘴を活かし、水面に浮遊するプランクトンなどを濾し取って食べる生態が他のカモ類にはない特徴である。雄は頭部が光沢ある緑色。南西諸島を含む全国で冬鳥。宮古諸島では貯水池などに普通に渡来する。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

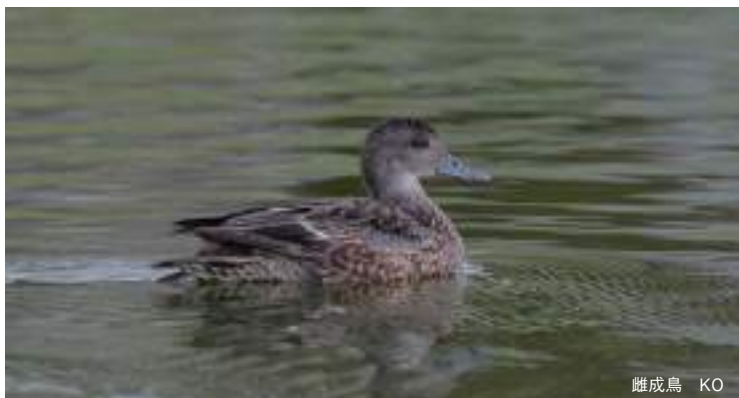
時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

コガモ

カモ目カモ科 L38cm

Anas crecca [小鴨] Teal



小型の淡水性のカモ類で、南西諸島を含む全国で冬鳥。雄は頭部が茶褐色と緑色の配色で美しい。翼鏡(翼の一部の光沢)は緑色。宮古諸島では各地の貯水池や池間湿原などに渡来する。シギラリゾートではゴルフ場の池で見られる。冬季の渡来は比較的早い。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

キンクロハジロ

カモ目カモ科 L40cm

Aythya fuligula [襟黒羽白] Tufted Duck



淡水を好む小型の潜水採餌型カモ類。雄の後頭部に長く垂れ下がった冠羽が特徴。雌は黒褐色で冠羽は小さい。全国的に冬鳥で、沖縄県でも冬季に小群で渡来し越冬する。宮古島では池間湿原などに渡来する。シギラリゾートではゴルフ場の池で見られる。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

スズガモ

カモ目カモ科 L45cm

Aythya marila [鈴鴨] Greater Scaup



本州などでは沿岸海域で大群で見られることの多い潜水採餌型カモ類。おもな国内越冬地は本州から九州にかけての沿岸で、沖縄県では数少ない冬鳥。基本的に海の鳥だが、宮古島でも池間湿原などに少数が渡来する。シギラリゾートではゴルフ場の池で見られる。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

カイツブリ

カイツブリ目カイツブリ科 L26cm

Tachybaptus ruficollis [鳩] Little Grebe



全国的に池や湖沼など水辺で見られる小さな水鳥。本州中部以南で留鳥。それより北では夏鳥。宮古島をはじめ沖縄県でも通年生息する留鳥で、冬季には北から渡来する個体加わって数が増える。シギラリゾートではゴルフ場の池で見られ、2013年調査時には冬季を中心に秋から春まで観察された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

キンバト

ハト目ハト科 L25cm

Chalcophaps indica [金鳩] Emerald Dove

常緑広葉樹林に棲む美しい色彩のハト類。主として東南アジアからオーストラリア大陸にかけて分布する留鳥。国内ではおもに八重山諸島で見られ、宮古島は分布の北限に当たる。国の天然記念物。環境省RDBで絶滅危惧IB類に指定。シギラリゾート内全域に数羽が棲みついているものと推定される。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12



雄成鳥 KO



雄成鳥 MW

ズアカアオバト

ハト目ハト科 L35cm

Treron formosae [頭赤緑鳩] Whistling Green Pigeon

アオバトとよく似ているが、色彩はやや地味で、体はアオバトよりやや大きい。屋久島から台湾までの島しょ部とフィリピン北部に分布する留鳥。雌雄同色。宮古島を含む先島諸島の亜種はチュウダイズアカアオバト。シギラリゾートやその周辺の道路では小群で電線などにとまっている姿を見ることが多い。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥 FK

キジバト

ハト目ハト科 L33cm

Streptopelia orientalis [雉鳩] Oriental Turtle Dove

日本をはじめアジア一帯に広く分布し、市街地から山林まで幅広い環境に棲むハト類。日本では本州以南で留鳥。北海道で夏鳥。南西諸島の亜種はリュウキュウキジバトで、亜種キジバトより全体に赤みが強い。シギラリゾートではホテル周辺を含む全域で通年普通に見られる。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥夏羽 FK

ゴイサギ

ペリカン目サギ科 L58cm

Nycticorax nycticorax [五位鷺] Black-crowned Night Heron

国内では本州以南に分布し、湿地や湖沼、河川などに生息する。東北地方では夏鳥、関東地方以南では留鳥で、南西諸島では一般に冬鳥または留鳥とされている。シギラリゾートではゴルフ場の池とその周辺で通年見られるが、2013年の調査時には秋季に多かった。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥 FK

アカガシラサギ

ペリカン目サギ科 L45cm

Ardeola bacchus [赤頭鷺] Chinese Pond Heron

全国的に数少ない旅鳥または冬鳥とされるが、南西諸島では比較的観察機会が多い。国外ではおもに東南アジアに分布する。成鳥は頭部から首にかけてのエンジ色が美しい。シギラリゾートの2013年の調査時には、おもに秋冬にゴルフ場の池に少数が確認された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥冬羽 FK

ササゴイ

ペリカン目サギ科 L52cm

Butorides striatus [笹五位] Striated Heron

国内では九州から東北地方まで分布する夏鳥で、九州南部では少数が越冬する。南西諸島では冬鳥。河川、湖沼などに棲み魚類などを捕食する。シギラリゾートではゴルフ場の池とその周辺で秋から春にかけて少数が見られ、秋に個体数がやや多くなる。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥 KO



成鳥 KO

アマサギ

ペリカン目サギ科 L51cm

Bubulcas ibis [猩々鷺・黄毛鷺] Cattle Egret

アフリカ大陸や南米大陸など南半球を中心に非常に広範囲に分布する。国内では本州以南で夏鳥で、九州や南西諸島ではほぼ留鳥だが、冬季に個体数が多くなる。夏羽は首から上が橙色で美しい。シギラリゾートの2013年の調査では秋の渡り期に観察された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥冬羽 KO

アオサギ

ペリカン目サギ科 L93cm

Ardea cinerea [蒼鷺] Grey Heron

ユーラシア大陸とアフリカ大陸に広く分布する大型のサギ。国内でも全国で普通に見られる。本州・四国では留鳥だが九州以南では基本的に冬鳥。宮古島では夏季以外には観察の可能性があるが、シギラリゾートでは秋から冬にかけてゴルフ場の池で見られる。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥冬羽 MW

ダイサギ

ペリカン目サギ科 L90cm

Ardea alba [大鷺] Great Egret

北半球の中高緯度地域と南半球に非常に広い分布域をもつ大型のサギ。国内では亜種チュウダイサギが繁殖し、亜種ダイサギが越冬する地域が多いが、沖縄県では亜種チュウダイサギが越冬する。亜種ダイサギの渡来は少ない。シギラリゾートではゴルフ場の池で夏季以外には普通に見られる。

分布

北 本 四 九 南 先

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



亜種ダイサギ成鳥冬羽 FK

チュウサギ

ペリカン目サギ科 L69cm

Egretta intermedia [中鷺] Intermediate Egret

東南アジアとアフリカ大陸を中心とした分布域をもち、国内では本州以南で夏鳥。西南日本では一部冬鳥。沖縄県では基本的に冬鳥だが数は多くない。宮古島では海岸や草地などに現れる旅鳥または冬鳥。シギラリゾートでの2013年調査では秋の渡り期に少数が記録された。環境省RDBで準絶滅危惧に指定されている。

分布

北 本 四 九 南 先

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥冬羽 MW

コサギ

ペリカン目サギ科 L61cm

Egretta garzetta [小鷺] Little Egret

東南アジアからアフリカ大陸を分布の中心とする白いサギ類。いわゆる白鷺類3種のうちで体が最も小さい。国内では本州以南で留鳥で、宮古島をはじめ沖縄県では冬鳥または留鳥。シギラリゾートでの2013年調査では秋冬を中心に観察され、夏季にも少数が記録された。ゴルフ場の池とその周辺が観察ポイント。

分布

北 本 四 九 南 先

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥冬羽 MW

クロサギ

ペリカン目サギ科 L62cm

Egretta sacra [黒鷺] Pacific Reef Heron

日本列島からフィリピン、インドネシア等を経て南半球にまで分布する海浜性のサギ。基本的に通年海岸に棲み、島しょ部に多い。黒色型と白色型があり、南西諸島では両方いる。シギラリゾートではシギラビーチのほかゴルフ場の池にもいる。2013年調査でも毎回記録され、夏季に最も数が多かった。

分布

北 本 四 九 南 先

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



黒色型成鳥 KO

シロハラクイナ

ツル目クイナ科 L32cm

Amauormis phoenicurus [白腹水鶏] White-breasted Waterhen

東南アジアやインドなどに分布するクイナ類。顔から体下面が白い。国内では沖縄県全域で留鳥で、沖縄を代表する鳥のひとつ。本州・九州などでも記録される。シギラリゾートには通年生息し繁殖しており、夏季を中心にリゾート内のあちこちで見られるが、警戒心が強く容易には姿を現さない。2013年調査時には毎回記録され、数も少なくなかった。夏季には雛の姿も見られた。

分布	時期					
北	本	四	九	南	先	
	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12



成鳥 MW



成鳥 KO

オオクイナ

ツル目クイナ科 L26cm

Rallina eurizonoides [大水鶏] Slaty-legged Crake

東南アジアやインドなどに分布するクイナ類。国内では先島諸島にのみ生息する留鳥だが、沖縄島でも記録がある。常緑広葉樹林に棲み、宮古島では大野山林が生息地として有名。シギラリゾートでの2013年調査では春と夏にわずかに声が確認された。個体数は少なく、環境省RDBで絶滅危惧IB類に指定されている。

分布	時期				
北	本	四	九	南	先
	1	2	3	4	
	5	6	7	8	
	9	10	11	12	



成鳥 KO

バン

ツル目クイナ科 L32cm

Gallinula chloropus [鶉] Common Moorhen

ユーラシア大陸・アフリカ大陸・南北アメリカ大陸に分布域をもつクイナ科の代表種。国内でも全国に広く分布し、関東地方以南で留鳥。北日本で夏鳥。全身が黒く、嘴とその上部の額板が赤いことが特徴。宮古島でも留鳥で、シギラリゾートでも普通に見られる。ゴルフ場の池では繁殖も確認されている。



成鳥 KO

分布	時期			
北	本	四		
九	南	先		
	1	2	3	4
	5	6	7	8
	9	10	11	12

オオバン

ツル目クイナ科 L39cm

Fulica atra [大鶉] Eurasian Coot

アジア・オセアニア、ヨーロッパなどに分布する大型のクイナ類。日本でも全国に分布し、おもに留鳥または冬鳥。北海道などでは夏鳥。黒い体と白い額板が特徴。沖縄県では冬鳥で、宮古島でも秋から春まで池間湿原などで観察される。シギラリゾートの2013年調査では冬季に少数を確認した。



成鳥 MW

分布	時期			
北	本	四		
九	南	先		
	1	2	3	4
	5	6	7	8
	9	10	11	12

ムナグロ

チドリ目チドリ科 L26cm

Pluvialis fulva [胸黒] Pacific Golden Plover

シベリア北部など北極圏で繁殖し、東南アジアやオセアニアなどで越冬するチドリ類。日本では全国的に旅鳥で、沖縄県では一部冬鳥。宮古島でも秋から春まで観察可能でチドリ類としては最も一般的。シギラリゾートの2013年調査では春・冬にも記録されたが秋に最も多く、ゴルフ場の芝生で群れが観察された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥冬羽 KO

シロチドリ

チドリ目チドリ科 L17cm

Charadrius alexandrinus [白千鳥] Kentish Plover

全体的に淡色の色彩に見える小型のチドリ類。ユーラシア大陸や北米大陸の中緯度地域で繁殖し、その南側の熱帯地域などで越冬する。日本列島では留鳥である地域が多い。沖縄県内でも留鳥で繁殖するが、宮古島では冬鳥または旅鳥であることが多い。シギラリゾートでの2013年調査では秋季に1羽だけ確認された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥冬羽 MW

セイタカシギ

チドリ目セイタカシギ科 L37cm

Himantopus himantopus [背高鷗] Black-winged Stilt

南半球に広く分布し、ここ数十年の間に北半球の温帯域に徐々に分布域を広げている。日本でもかつては稀な鳥だったが、近年は各地に渡来し定着しつつある。非常に細長い赤い足が特徴。宮古島では旅鳥または冬鳥、シギラリゾートでの2013年調査では秋季に多く確認され、春にもわずかに記録された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



若鳥 FK



雌成鳥(手前) 雄成鳥(奥) KO

ヤマシギ

チドリ目シギ科 L34cm

Scolopax rusticola [山鷗] Eurasian Woodcock

ユーラシア大陸の亜寒帯地域に広く繁殖分布をもつシギ類。日本では本州中部以南で冬鳥。それ以外の地域では留鳥または夏鳥。沖縄県では冬鳥で、秋から春まで林や農耕地などに生息しているが、夜行性のため観察の機会は少ない。シギラリゾートの2013年調査時には冬季の夜間に芝生に出て来ていた。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥 FK

クサシギ

チドリ目シギ科 L22cm

Tringa ochropus [草鷗] Green Sandpiper

河川、水田など淡水性湿地や草地を好むシギ類。ユーラシア大陸の亜寒帯地域に広く繁殖分布をもち、東南アジアからアフリカ大陸の熱帯地域などで越冬する。日本では本州中部以北で旅鳥で関西以西では冬鳥。宮古島でも秋から春まで見られる。シギラリゾートの2013年調査では秋季に少数が芝生で確認された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥冬羽 MW

キアシシギ

チドリ目シギ科 L25cm

Heteroscelus brevipes [黄足鷗] Grey-tailed Tattler

全国的に春秋の渡りの時期に普通に渡来する旅鳥。シギとしては短めの黄色い足が特徴。繁殖分布はシベリアなど、越冬分布は台湾からオーストラリアにかけて。宮古島を含む沖縄県では基本的には旅鳥だが、一部の個体は越冬する。シギラリゾートの2013年調査では春季から秋季に少数が確認された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥冬羽 FK

タカブシギ

チドリ目シギ科 L20cm

Tringa glareola [鷹斑鷗] Wood Sandpiper

クサシギ同様、淡水性湿地や草地を好むシギ類。ユーラシア大陸の寒帯地域に広く繁殖分布をもち、熱帯から南半球にかけて広く越冬分布をもつ。日本では本州中部以北で旅鳥で関西以西では冬鳥。宮古島では秋から春まで普通に見られる。シギラリゾートの2013年調査では秋季に少数が確認された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥冬羽 KO

イソシギ

チドリ目シギ科 L20cm

Actitis hypoleucos [磯鷗] Common Sandpiper

アジア・ヨーロッパ・アフリカ・オーストラリアなど世界に広く分布する小型のシギ類。温帯から亜熱帯にかけてが繁殖地と越冬地の境界となり、日本列島では中部地方以南で留鳥。沖縄県は基本的に越冬地だが夏にも少数が見られる。シギラリゾートでは夏季以外にはゴルフ場の池の周辺で多数が観察される。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥 KO

ハマシギ

チドリ目シギ科 L21cm

Calidris alpina [浜鷗] Dunlin

全国的に数多く観察される代表的なシギ類。繁殖地は北極圏、越冬地は東南アジアなど。日本では関東地方以南で冬鳥。東北地方以北で旅鳥。沖縄県では冬鳥の代表的な存在で、干潟や水田などで普通に見られる。シギラリゾートの2013年調査時には秋に小群がゴルフ場の池で記録された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥冬羽 KO

ミフウズラ

チドリ目ミフウズラ科 L14cm

Turnix susciator [三斑鶉] Barred Buttonquail

国内では南西諸島だけに分布する留鳥。国外では東南アジアやインドなどに生息する。ウズラと名が付くがキジ目ウズラ科とは全く別の分類の鳥。草地や農耕地に棲み、雄よりも雌の方が色鮮やかで子育ては雄が行う。宮古島はこの鳥が最も観察しやすい島と言われ、シギラリゾートにも通年生息しているが、臆病な性質でなかなか姿を現さない。

分布

北 本 四 九 南 先

時期

1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12



雌成鳥 KO



雌成鳥 KO

ツバメチドリ

チドリ目ツバメチドリ科 L25cm

Glareola maldivarum [燕千鳥] Indian Pratincole

日本で記録のある唯一のツバメチドリ類。アジア東部からオセアニアに分布し、日本では数少ない旅鳥または夏鳥。関東地方以西で局地的に繁殖する。飛翔姿は大きなツバメのような印象。沖縄県では少数が荒地などに小コロニーを作って繁殖する。シギラリゾートでは夏季に多数見られ幼鳥も含まれることから、付近で繁殖している可能性がある。環境省RDBで絶滅危惧Ⅱ類に指定。

分布

北 本 四 九 南 先

時期

1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12



成鳥冬羽 MW



成鳥夏羽(左は雌、右は雄) KO

エリグロアジサシ

チドリ目カモメ科 L30cm

Sterna sumatrana [襟黒鰯刺] Black-naped Tern

奄美諸島以南に渡来する夏鳥。ベニアジサシとともに沖縄県の夏を象徴するアジサシ類の1種。全体に白く、目から後頭部にかけての黒い帯が特徴。海岸の岩礁や小島の崖地などでコロニー(集団繁殖地)を作って繁殖する。シギラリゾートではシギラビーチなどの岩礁で見られる。環境省RDBで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

分布

時期

北	本	四	九	南	先	1	2	3	4	5	6
						7	8	9	10	11	12



成鳥夏羽 KO



成鳥夏羽 KO



成鳥夏羽 KO

クロハラアジサシ

チドリ目カモメ科 L26cm

Chlidonias hybrida [黒腹鰯刺] Whiskered Tern



成鳥 MW

春秋の渡りの時期に全国で見られる旅鳥だが、数は少ない。南西諸島では越冬する個体もいる。換羽中の個体はゴマ塩状の頭部とまばらに黒い腹が印象的。シギラリゾートでは秋にゴルフ場の池の上を飛びながら獲物を探す場面が見られる。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

ハジロクロハラアジサシ

チドリ目カモメ科 L23cm

Chlidonias leucopterus [羽白黒腹鰯刺] White-winged Black Tern



成鳥 KO

春秋の渡りの時期に全国で少数が見られる旅鳥。成鳥夏羽は頭から腹にかけて黒く、翼が白いことが特徴。冬羽や幼鳥はクロハラアジサシによく似る。シギラリゾートで見られる場所も同様で、秋にゴルフ場の池などにいる。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

ミサゴ

タカ目ミサゴ科 L雄54cm雌64cm

Pandion haliaetus [鶯・水沙兎] Western Osprey

生きた魚を専門に捕食する大型のタカ。全国に分布し南西諸島では冬鳥だが、宮古島では少数が夏も見られる。シギラリゾートの2013年調査でも春夏秋冬とも記録された。魚を求めて海岸線を飛翔する場面を見ることが多いが、ゴルフ場の池の上空に現れることもある。環境省RDBで準絶滅危惧に指定。

分布

北 本 四 九 南 先

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥 FI

アカハラダカ

タカ目タカ科 L30cm

Accipiter soloensis [赤腹鷹] Chinese Sparrowhawk

朝鮮半島や沿海州の繁殖地からフィリピンなど東南アジアの越冬地に渡る小型のタカで、九州や南西諸島がその渡り経路上に位置する。沖縄本島や宮古島、石垣島に有名な観察地が点在しており、数万羽という大群が見られる。シギラリゾートの2013年調査でも秋季に上空を飛ぶ姿が少数確認された。

分布

北 本 四 九 南 先

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥 MW

サシバ

タカ目タカ科 L雄47cm雌51cm

Butastur indicus [刺羽] Grey-faced Buzzard-eagle

本州・四国・九州で繁殖し、東南アジアなどで越冬する中型のタカ。朝鮮半島などにも繁殖地がある。春秋の渡り期には群れで渡る様子が各地で見られる。宮古諸島は秋の渡りの最大の中継地として全国的に有名。そのまま島内で越冬する個体も少なくなく、シギラリゾートでも秋から春まで観察される。環境省RDBで絶滅危惧II類に指定。

分布

北 本 四 九 南 先

時期

1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12



雄成鳥 FK



雄成鳥(カエルを捕食) FK

リュウキュウコノハズク

フクロウ目フクロウ科 L22cm

Otus elegans [琉球木葉菟] Ryukyu Scops Owl

奄美大島以南の南西諸島に分布する留鳥で、沖縄県では平地から山地の林に普通に生息する。南西諸島の固有種で、本州のコノハズクに似るがやや大きく、鳴き声も違う。宮古島では大野山林が生息地として有名。シギラリゾートでも樹林に生息しているが、2013年調査時には冬季にのみ記録された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥 FK



成鳥 FK

アオバズク

フクロウ目フクロウ科 L29cm

Ninox scutulata [青葉木菟] Brown Hawk-Owl

羽角(耳のように見える飾り羽)のない代表的なフクロウ類。奄美諸島から北海道まで全国的に夏鳥。奄美諸島以南の南西諸島では留鳥で、亜種リュウキュウアオバズクと亜種アオバズクが生息する。シギラリゾート内の林にも通年生息しているらしく、2013年調査時には春・夏・秋に少数が記録された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥 FK

チョウゲンボウ

ハヤブサ目ハヤブサ科 L雄33cm 雌39cm

Falco tinnunculus [長元坊] Common Kestrel

ユーラシア大陸とアフリカ大陸に広く分布する小型のハヤブサ類。国内では全国的に留鳥で、地域によっては夏鳥または冬鳥。本州中部以北で繁殖する。沖縄県では基本的に冬鳥で、宮古島でも農耕地や草地などで冬季に見られる。シギラリゾートの2013年調査でも冬季に少数が確認された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



雌成鳥 FI

ハヤブサ

ハヤブサ目ハヤブサ科 L雄42cm 雌49cm

Falco peregrinus [隼] Peregrine Falcon

世界的には広い分布域をもち、国内では九州以北に分布する留鳥。宮古島を含む沖縄県では冬鳥。海岸や河口、湖沼、農耕地などでおもに鳥類を捕食する。シギラリゾートの2013年調査では、夏季以外には少ないながらも毎回記録され、冬季には目撃事例が多かった。環境省RDBで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥 FI



成鳥 FI

サンコウチョウ

スズメ目カササギヒタキ科 L雄45cm雌18cm

Terpsiphone atrocaudata [三光鳥] Japanese Paradise Flycatcher

非常に尾の長い雄の姿が印象的な小鳥。繁殖地は本州以南の日本列島と朝鮮半島のみという狭い分布の鳥で、日本では夏鳥。国内に2亜種が知られ、奄美大島以南に見られるのは亜種リュウキュウサンコウチョウ。ただし、基亜種との識別は困難。よく繁った森に棲み、宮古島では大野山林などで確認。シギラリゾート内の林にも見られる。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



アカモズ

スズメ目モズ科 L20cm

Lanius cristatus [赤百舌] Brown Shrike



ユーラシア大陸東部に広く分布するモズ類。農耕地などに棲む。日本では基亜種のほか亜種シマアカモズなどが見られる。沖縄県では基亜種は少なく、亜種シマアカモズが冬鳥または旅鳥として普通。シギラリゾートの2013年調査では秋季に目立っていた。基亜種が環境省RDBで絶滅危惧IB類に指定。

分布(亜種シマアカモズ)

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期(亜種シマアカモズ)

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

ツバメ

スズメ目ツバメ科 L17cm

Hirundo rustica [燕] Barn Swallow



世界中に広く分布するツバメ類の代表種。日本では九州以北で夏鳥だが少数は越冬する。南西諸島ではおもに旅鳥で、一部が越冬し、また少数が越夏する。シギラリゾート2013年調査では毎回記録され、秋と冬に多く、特に秋には群れでゴルフ場の芝生の上を飛び回る姿が印象的だった。夏季も少数が見られた。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

リュウキュウツバメ

スズメ目ツバメ科 L14cm

Hirundo tahitica [琉球燕] Pacific Swallow



南西諸島からオーストラリアにかけて分布する留鳥のツバメ類。ツバメより尾羽の燕尾型が浅い。宮古島では夏に個体数が増え、季節性移動をする個体が渡来すると考えられる。シギラリゾートの2013年調査でも記録は毎回あり、特に夏季に多かった。クラブハウス付近の電線にとまる姿がよく目撃された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

ヒヨドリ

スズメ目ヒヨドリ科 L28cm

Hypsipetes amaurotis [鶇] Brown-eared Bulbul



全国的にごく普通に見られる甲高い声の留鳥。世界的には日本列島周辺と台湾付近にしか分布しない。8亜種が知られ、沖縄県ではうち4亜種が普通。中でも宮古島以北に普通に分布するのが亜種リュウキュウヒヨドリ。シギラリゾートでもこの亜種がとても目立つが、本州の亜種と比べて明らかに色彩が濃い。

分布(亜種リュウキュウヒヨドリ)

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期(亜種リュウキュウヒヨドリ)

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

ウグイス

スズメ目ウグイス科 L14~16cm

Cettia diphone [鶯] Japanese Bush Warbler



日本列島を中心に、サハリンからフィリピンにかけて分布する森林性の小鳥。沖縄本島では留鳥、宮古諸島では冬鳥。亜種レベルでは生息状況に不明の点もある。シギラリゾートでの2013年調査では冬季と春季に記録された(亜種不明)が、藪を潜行し、さえずる季節ではないこともあり観察は意外と難しい。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

ムジセツカ

スズメ目ムシクイ科 L12cm

Phylloscopus fuscatus [無地雪加] Dusky Warbler



ウグイスに似た感じの小鳥で、日本では数少ない旅鳥または冬鳥。1982年の西表島が国内初記録。その後観察例が続き、現在では与那国島など八重山諸島で毎年少数が越冬することがわかっている。宮古諸島でも2007年以来毎年のように記録されており、シギラリゾートの2013年調査でも冬季に記録された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

メボソムシクイ

スズメ目ムシクイ科 L13cm

Phylloscopus xanthodryas [目細虫喰] Japanese Leaf Warbler



国内では本州、四国の亜高山帯針葉樹林に生息する夏鳥。ムシクイ類は姿の似たものも多く、繁殖期には生息環境とさえずり声の違いで区別するが、本種は沖縄県では数少ない旅鳥または冬鳥であり、さえずらない時期のため識別は難しい。シギラリゾートの2013年調査でも冬季に少数が記録された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

メジロ

スズメ目メジロ科 L12cm

Zosterops japonicus [目白] Japanese White-eye



日本列島と中国南部などに分布する小鳥で、大部分の生息地で留鳥。6亜種が知られ、宮古諸島には亜種リュウキュウメジロが通年生息する。基亜種メジロと比べ、脇腹に褐色みがないことが特徴。冬季には基亜種メジロも渡来する。シギラリゾート内の各地でも年間を通して多数が観察される。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

セツカ

スズメ目セツカ科 L13cm

Cisticola juncidis [雪加] Zitting Cisticola

本州以南に分布する留鳥で、草原に棲む小鳥の代表格。世界的には東南アジア、インド、アフリカ大陸などにも分布する。沖縄県では大東諸島以外で普通に見られ、宮古島には特に密度高く生息するように感じられる。シギラリゾートの内外でも多数見られる。なお、沖縄では本種を「ヒバリ」と俗称する習慣がある。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



ギンムクドリ

スズメ目ムクドリ科 L24cm

Spodiopsar sericeus [銀椋鳥] Red-billed Starling

雄の背が銀色の美しいムクドリ類。国内では一般に稀な冬鳥で貴重なイメージがあるが、台湾や中国南部を分布地とし、与那国島や西表島そして宮古島など先島諸島には毎年渡来している。草丈の短い草地に棲むためシギラリゾートのゴルフ場には毎冬現れるものと考えられる。2013年調査時にも冬季に記録された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



雄成鳥 (右) FI

コムクドリ

スズメ目ムクドリ科 L19cm

Agropsar philippensis [小椋鳥] Chestnut-checked Starling

日本列島の北半分(本州中部以北)などを繁殖分布としフィリピンなどを越冬地とするムクドリ類。南西諸島をはじめ繁殖地と越冬地の間に位置する地域では渡りの時期に通過する旅鳥。沖縄では秋、サシバの来る前ぶれとして本種の大群が現れると言われる。シギラリゾート2013年調査時にも秋季に記録された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



雄成鳥 KO



雌成鳥 KO

カラムクドリ

スズメ目ムクドリ科 L20cm

Sturnia sinensis [唐椋鳥] White-shouldered Starling

国内では数少ない冬鳥または旅鳥で、本州などには稀に現れる程度の貴重な鳥。東南アジアに分布し、南西諸島や九州南部では少数が毎冬渡来する。沖縄県では冬に比較的観察しやすく、石垣島では近年渡来数が増えているという。シギラリゾートの2013年調査時には冬季を中心に春季にも記録された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



雄成鳥 MW

ムクドリ

スズメ目ムクドリ科 L24cm

Spodiopsar cineraceus [椋鳥] White-cheeked Starling

全国の農耕地などでごく普通に見られる最も身近な野鳥のひとつ。北海道から九州にかけてほぼ留鳥で、南西諸島で冬鳥。日本列島のほか中国東部にも分布する。沖縄県ではおもに冬鳥で草地などに数十羽の群れで観察されることが多い。シギラリゾートの2013年調査の際には秋季と冬季に記録された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



群れ FI

ホシムクドリ

スズメ目ムクドリ科 L22cm

Sturnus vulgaris [星椋鳥] Common Starling

ヨーロッパや北米大陸などに広く分布するムクドリ類で、ほぼ全身に星を散らしたような斑点があることが特徴。国内では沖縄県をはじめおもに西南日本に渡来する数少ない冬鳥。宮古諸島にも毎冬少数が渡来する。シギラリゾートの2013年調査時には、ゴルフ場の芝生で冬季および秋季に観察された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥冬羽 FI



ムクドリとの群れ FK

シロハラ

スズメ目ヒタキ科 L25cm

Turdus pallidus [白腹] Pale Thrush

国内ではおもに本州中部以南に渡来する冬鳥で、代表的な大型ツグミ類の1種。繁殖地は中国北東部など。雑木林や灌木のある草地などに棲み、枯葉の下にいるミミズなどを捕食する。西日本では冬季に普通に見られるが、宮古島ではさらに生息密度が高く、シガラリゾート内でも全域で数多く観察される。

分布

北 本 四 九 南 先

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



若鳥 MW



若鳥 FI

アカハラ

スズメ目ヒタキ科 L24cm

Turdus chrysolaus [赤腹] Brown-headed Thrush



雌成鳥 FK

大型ツグミ類の一種で、おもに本州中部以南で越冬する冬鳥。本州中部以北では夏鳥。国外の越冬分布はフィリピンや中国南東部など。胸や脇腹の橙色が特徴。生息環境や行動はシロハラに似る。沖縄県でも冬鳥だが数は多くない。シガラリゾートの2013年調査時には冬季と春季に少数が確認された。

分布

北 本 四 九 南 先

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

ツグミ

スズメ目ヒタキ科 L24cm

Turdus naumanni [鶇] Nauman's Thrush



成鳥 KO



亜種ハチジョウツグミ MW

大型ツグミ類の代表種で、全国で数多く見られる冬鳥。繁殖地はシベリアなどで、日本列島から中国南東部にかけての一角を越冬分布とする。宮古島では年によって渡来数に変動があるという。シガラリゾートの2013年調査の際には冬季と春季に少数が記録され、亜種ハチジョウツグミも1羽観察された。

分布

北 本 四 九 南 先

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

イソヒヨドリ

スズメ目ヒタキ科 L23cm

Monticola solitarius [磯鶇] Blue Rock Thrush

海岸の岩場に多いイソヒヨドリ類の代表種で、国内では本州から南西諸島で留鳥。沖縄県では数多く見られ市街地でも普通で、屋根の上でもさえずることから「カーラバンサー(瓦番鳥)」と呼ばれ親しまれている。シガラリゾートでも全域で年間を通して多数生息しており、ホテル内に飛び込んで来ることもある。

分布

北 本 四 九 南 先

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



雄成鳥 KO



雌成鳥 KO



雄成鳥 KO

ノゴマ

スズメ目ヒタキ科 L16cm

Luscinia calliope [野鶺] Siberian Rubythroat

国内では北海道で繁殖する夏鳥で、他の地域では旅鳥。他にシベリアやカムチャツカ半島などで繁殖し、宮古島をはじめ沖縄県では旅鳥または冬鳥。シギラリゾートの2013年調査時には冬季と春季に記録された。雄の赤い喉が特徴で、雌は目立つ色彩はない。藪や繁みに潜んでいることが多く観察機会は少ない。

分布

北 本 四 九 南 先

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



雄成鳥 MW

ジョウビタキ

スズメ目ヒタキ科 L14cm

Phoenicurus aureoreus [尉鶺] Daurian Redstart

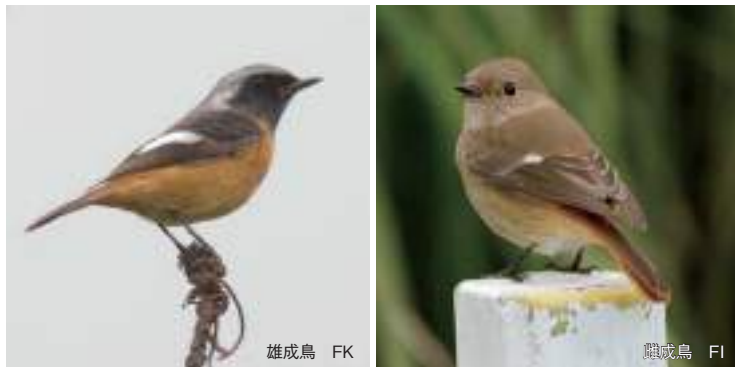
全国に渡来する小型ツグミ類で、日本の冬鳥の代表的存在。雄の銀灰色の頭部と橙色の下面、それに紋付に例えられる翼の白斑が特徴。宮古島をはじめ沖縄県でも各地で冬鳥だが、本州で見かけるイメージよりも個体数は少ない。シギラリゾートの2013年調査時には冬季に少数が確認された。

分布

北 本 四 九 南 先

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



雄成鳥 FK

雌成鳥 FI

ノビタキ

スズメ目ヒタキ科 L13cm

Saxicola rubetra [野鶺] African Stonechat

国内では本州中部以北に渡来する夏鳥として知られる草原性の小鳥。本州中部以南では渡りの時期に見られる旅鳥。宮古島をはじめ沖縄県では冬鳥または旅鳥。世界的な越冬分布は東南アジアからアフリカ大陸にかけて。雌雄異色で夏冬異色。シギラリゾートの2013年調査時には冬季に1羽のみ確認された。

分布

北 本 四 九 南 先

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



雄成鳥冬 FI

雄成鳥夏羽 KO

エゾビタキ

スズメ目ヒタキ科 L15cm

Muscicapa griseisticta [蝦夷鶺] Grey-spotted Flycatcher

カムチャツカ半島やシベリア東部などで繁殖し、フィリピンやインドネシアなどの越冬地へ渡る際に日本列島を経由する旅鳥。沖縄県では9月10月の秋の渡りの時期に林縁などでよく観察され、宮古島にも比較的多く渡来する。シギラリゾートの2013年調査の際には秋季に少数が記録された。

分布

北 本 四 九 南 先

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥 MW

コサメビタキ

スズメ目ヒタキ科 L13cm

Muscicapa dauurica [小鮫鶺] Asian Brown Flycatcher

国内では九州から北海道にかけて渡来し繁殖する夏鳥。エゾビタキと似るが、やや小型で下面が白く、目がクリツとした可愛らしい印象。東南アジアを越冬分布とし、南西諸島は渡りの経路に当たり旅鳥となる。宮古島では数少ない旅鳥。シギラリゾートの2013年調査時には秋季に少数が記録された。

分布

北 本 四 九 南 先

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥 MW

スズメ

スズメ目スズメ科 L14cm

Passer montanus [雀] Eurasian Tree Sparrow

小笠原諸島を除く全国に分布する留鳥で、一般に最も身近な親しみ深い野鳥。世界的にはユーラシア大陸の中低緯度地域のほぼ全域に広く分布し、日本列島はその東端。人家付近など人の生活圏に生息することが生態上の大きな特徴。宮古島にも年間を通して多数生息しており、シギラリゾートでも同様。

分布

北 本 四 九 南 先

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥 MW

ツメナガセキレイ

スズメ目セキレイ科 L17cm

Motacilla flava [爪長鶺鴒] Yellow Wagtail

ユーラシア大陸とアフリカ大陸に広く分布域をもつセキレイ類。国内では5亜種の記録があり、そのうち北海道で繁殖する基亜種が宮古島など沖縄県では冬鳥または旅鳥となる。沖縄県では他に3亜種が見られ、いずれも旅鳥または冬鳥で初秋から渡来する。シギラリゾートの2013年調査時には基亜種が秋季と冬季に記録された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥冬羽 KO

キセキレイ

スズメ目セキレイ科 L17cm

Motacilla cinerea [黄鶺鴒] Grey Wagtail

全国の溪流や水辺で見られるセキレイ類。九州から本州では留鳥で、南西諸島では冬鳥。北海道では夏鳥。下面の黄色が印象的だが、冬羽ではその色が薄い。宮古島をはじめ沖縄県各地では冬季に普通に見られる。シギラリゾートの2013年調査時には冬季を中心に秋季・春季にも少数が確認された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥冬羽 MW

ハクセキレイ

スズメ目セキレイ科 L21cm

Motacilla alba [白鶺鴒] White Wagtail

セキレイ類の代表種で、全国的には通年数多く見られる留鳥だが、宮古島など沖縄県では冬鳥または旅鳥。世界的にはユーラシア大陸のほぼ全域とアフリカ大陸の広大な分布域をもつ。国内には7亜種があるが、沖縄県ではそのうち6亜種が記録されている。ただ、個体数は基亜種が圧倒的に多い。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥 FK

ピンズイ

スズメ目セキレイ科 L16cm

Anthus hodgsoni [便追] Olive-backed Pipit

明るい林に生息するタヒバリ類で、国内では四国以北で繁殖する夏鳥。本州中部以南に留鳥としての分布地があり、九州以南では冬鳥。宮古島をはじめ沖縄県では冬鳥で、松林やその付近で観察されることが多い。シギラリゾートの2013年調査時には秋季から春季までの間に少数が確認された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥 FK

ムネアカタヒバリ

スズメ目セキレイ科 L16cm

Anthus cervinus [胸赤田雲雀] Red-throated Pipit

おもに西日本に渡来する数少ない旅鳥または冬鳥で、九州や南西諸島では個体数が多い。東南アジアなどを越冬分布とし、西日本は越冬地の北限に位置する。繁殖分布は北極圏。夏羽は胸から上が赤褐色を呈するが、観察機会の多い冬羽では赤みは乏しく、他のタヒバリ類との識別に注意が必要。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥冬羽 KO

タヒバリ

スズメ目セキレイ科 L16cm

Anthus rubescens [田雲雀] Buff-bellied Pipit

国内では東北地方以南に渡来するタヒバリ類の代表種で、農耕地などで見られる冬鳥。繁殖地は北米大陸の北部やシベリア北部など。沖縄県も越冬地であり沖縄本島などでは普通だが、宮古島ではムネアカタヒバリより数は少ない。シギラリゾートの2013年調査では冬季にゴルフ場の芝生で少数が確認された。

分布

北	本	四	九	南	先
---	---	---	---	---	---

時期

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12



成鳥冬羽 KO

キンバラ

スズメ目カエデチヨウ科 L12cm

Lonchura malacca [金腹] Chestnut Munia

インド南部から東南アジアにかけてを原産地とする留鳥。草原に棲み、イネ科の種子を好んで食べる。愛玩用に飼育されていたものが逃げ出し野生化した外来種。かつてはギンバラの亜種とされていたためギンバラとしての記録を含め沖縄本島や本州で記録されている。2013年調査では秋季と春季に観察され、特に秋季は大群で現れた。



FK

バリケン

カモ目カモ科 L70~80cm

Cairina moschata [バリケン] Muscovy Duck

南米産のノバリケンを食用のために家禽化したもので、台湾アヒルまたはフランス鴨とも呼ばれる。飛行能力が残っているため逃げ出した個体が各地で散見される。羽色は白一色から黒が混じったものや濃緑色に白が混ざったものまで多様。顔面に赤い裸出部がある。シギラリゾートでは飼育のアヒルとともに数羽が生活している。



KO

この図鑑の見方

- 分布
国内分布地域を下記の意味で示しました。着色部分は、その地域に留鳥・夏鳥・冬鳥・旅鳥のいずれかとして分布することを意味しています。
- 〔北〕:北海道 〔本〕:本州 〔四〕:四国 〔九〕:九州
- 〔南〕:南西諸島(九州南端から台湾までの島しょ群のこと・当図鑑では先島諸島を除く島々を意味します)
- 〔先〕:先島諸島(南西諸島のうち宮古諸島から与那国島までの島々のこと)
- 時期
数字は月を示します。シギラリゾートで観察の可能性が大きい月に着色してあります。月別の着色については、下記の参考文献からの情報を主に、2013年調査時等の体験を加味して判断しました。

- 写真撮影者
各写真の右下端のアルファベットは撮影者名をイニシャルで示しました。
KO: 大橋弘一 / MW: 渡会満寿男 / FK: 勝野史雄 / FI: 伊関文隆
- 写真撮影地
一部、シギラリゾート以外で撮影した写真は次のとおりです。
- シート⑤ オオクイナ(宮古島内)
- シート⑪ リュウキュウコノハズクのメイン写真(宮古島内)
- シート⑭ コムクドリ雄(宮古島外) コムクドリ雌(宮古島外)
- シート⑮ ツグミ(宮古島外)
- シート⑯ ノビタキ雄夏羽(宮古島外)
- シート⑰ タヒバリ(宮古島外)

用語解説

- 亜種** 「種」の下層の分類単位。その種の中で地域的に隔離されるなどして独自の進化を遂げ、形態的な差異が生じたもの。
- 基亜種** 亜種名が種名と同一のもの。
- 夏鳥** その地域を繁殖地とする鳥。基本的には春に渡ってきて繁殖し秋に渡去する。
- 冬鳥** その地域を越冬地とする鳥。基本的には秋に渡来し、冬を過ごして春に渡去する。
- 留鳥** 季節移動をせず、一年じゅうその地域にいる鳥。
- 旅鳥** 渡りの途中でその地域を経由して行く鳥。渡りの通過点としてその地域に寄留する鳥。
- RDB** レッドデータブック。絶滅のおそれのある野生生物の種や亜種についてその生息状況を取りまとめた本。当図鑑では環境省の最新版(第4次レッドリスト・2012年)に拠って表記しました。

- 絶滅危惧IB類** RDBに記載されたカテゴリー(ランク)のひとつ。絶滅の危機に瀕している種のうち、近い将来における野生絶滅の危険性が高いもの。
- 絶滅危惧II類** RDBに記載されたカテゴリー(ランク)のひとつ。絶滅の危険が増大している種。
- 準絶滅危惧** RDBに記載されたカテゴリー(ランク)のひとつ。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種。
- 型(かた)** 同一種内における形態の違いが判別可能なタイプのこと。クロサギの白色型・黒色型が典型例。
- 額板(がくばん)** クイナ類などで、上嘴から上部へ額のあたりまで延長しているような角質部位のこと。
- コロニー** 集団繁殖地のこと。

シギラリゾート2013年鳥類生息調査について

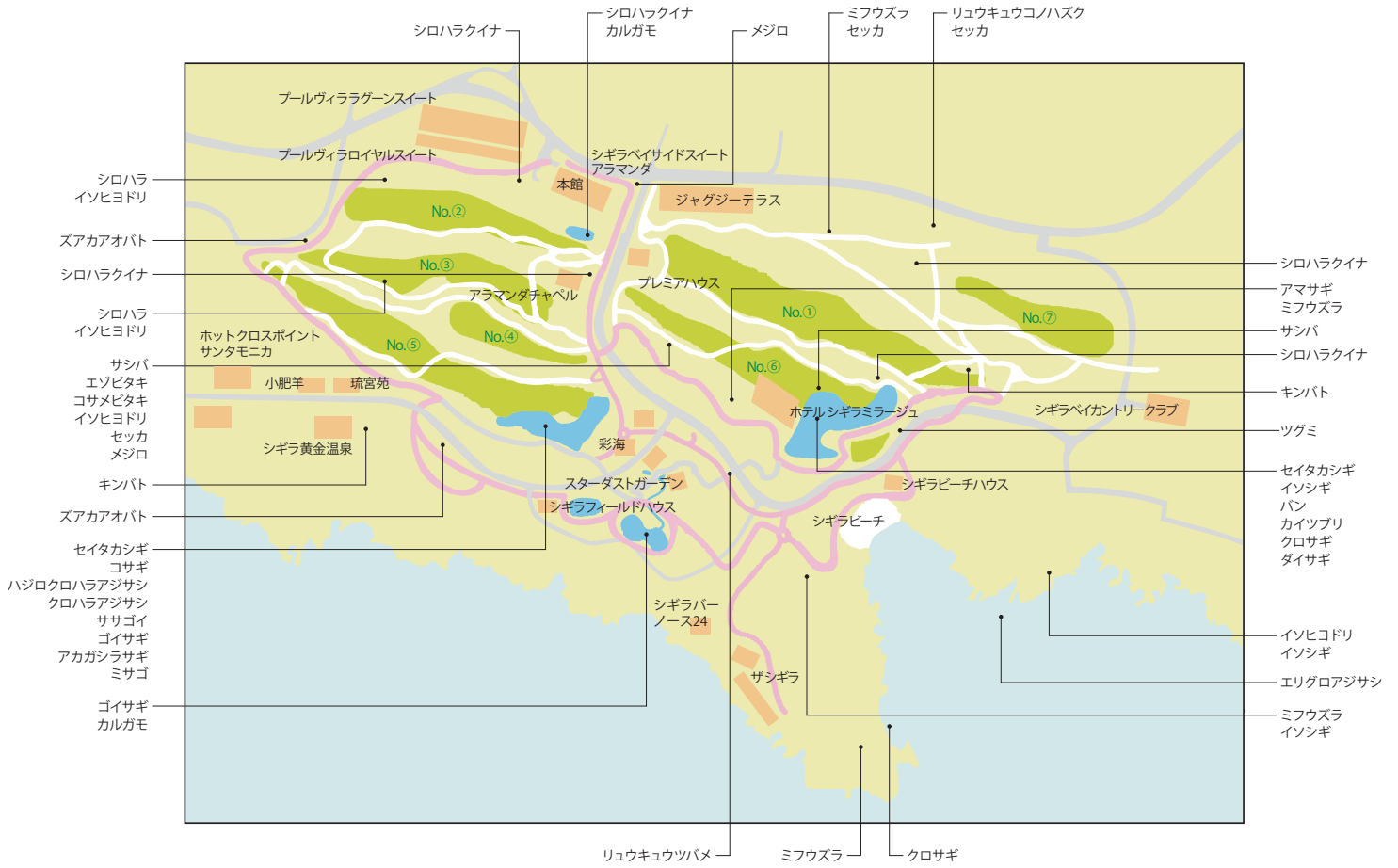
- 調査期間
春季 4月1日~6日 夏季 6月9日~14日 秋季 10月14日~19日
冬季 12月15日~20日
- 調査者
有限会社ナチュラリー
(北海道札幌市中央区大通西11丁目4-27 北海ケミカル札幌ビル 6F)
- 調査員氏名
大橋弘一・渡会満寿男・勝野史雄・伊関文隆(各回ともこのうち3名が担当)

- 記録全種リスト(当図鑑に未掲載の種のみ下記に記載)
ヒドリガモ・マガモ・ウミウ・リュウキュウヨシゴイ・ヒクイナ・ジュウイチ・ホトギス・アマツバメ・イカルチドリ・タシギ・アオアシシギ・ツミ・アカショウビン・カワセミ・サンショウクイ・モズ・ハシブトガラス・コシアカツバメ・イワツバメ・キマユムシクイ・エゾセンニュウ・オオジュリン
掲載種を含め計101種(ツグミのみ2亜種)を記録

参考文献

日本鳥学会「日本鳥類目録改訂第7版」/ 沖縄野鳥研究会「改訂版沖縄の野鳥」(新星出版) / 砂川栄喜「沖縄宮古の野鳥」(ボーダーインク) / 高野伸二「フィールドガイド日本の野鳥増補改訂版」(日本野鳥の会) / 真木広造・大西敏一「日本の野鳥590」(平凡社) / 叶内拓哉ほか「山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥」(山と溪谷社)

野鳥観察スポット MAP



※スズメ、キジバト、ヒヨドリは全域で見られます

ゴルフコース内への立ち入りはゴルフプレーの妨げにならないよう、ご注意ください。

- ゴルフカート道
- 一般カート道
- 一般道